

+着陸に向かって機体を傾けた飛行機の窓からチラリと見えたのは、テラコッタ屋根で覆われた街並み。カラリとした空気が目から身体に感じられた。すぐそばには海岸線を長く、長く覆いつくす白く光るビーチ。青という言葉だけでは足りない鮮やかすぎる海は、刺さるような太陽の光と果てしない空の青とで肩を組んで「どうだ、美しいだろ？」と笑みを浮かべているようでした。

地に足をつける前におなか一杯になってしまった私。ニース初日のミッションは、生活拠点となる部屋の契約でした。建物の場所も、空港からの距離も、部屋主とのやり取りもばっちり。いよいよ留学の舞台、地中海、フランスはニースに足を踏み入れたのです。



【部屋の契約】

弾む心と緊張を両手に抱えて部屋の契約に挑んだ僕だったのですが、英語が喋れると思っていた貸主の夫婦は全く英語が話せないという事実が発覚。息遣いだけが響く部屋の中、言語の壁と難しいフランス語の契約書を目の前に、これまでに感じたことがない焦りを覚えました。スマホの翻訳アプリを差し出しても首を横に振られ、何が何だかわからない状態になってしまいました。

実を言うと、留学先の授業はすべて英語で行われるため、フランス語はまだまだ初心者の状態で留学先に飛び込んだのです。

渡航前の部屋主とのやり取りはフランス語のメールで行っており、意味や訳をゆっくりと照らし合わせながら内容を理解し、返信の際は英語で書いた文章をフランス語に翻訳して翻訳の捻じれがないかを確認してから送るという感じで、何とか契約まで約束を済ませていました。メールでのやり取りの中でフランス語が話せないので契約当日は英語でのやり取りでお願いしますと確認まで取っていたので、正直、安心しきっていました。

絶望（僕は希望を捨てたことがないので正しくは絶望ではないのですが）と云っていいような状況の中、貸主の方が英語を話せる友人に電話をつなぎ、その友人に通訳

をしてもらうことで、なんとか最後まで契約を済ませることができました。何があったかは割愛しますが、契約の予定時間は12時、契約が無事終わり、息を大きく吐き出した時間はなんと8時間後の20時。初日から山あり谷あり。

【学校生活】

学校はフランス南部のニースにあるのですが、私を含めフランス国外の様々な国籍の学生が集まっています。ニースにきて出会った人々の故郷を巡れば、世界を一周してしまえるくらい、豊かに文化が交わりあい、常に刺激で溢れる学校です。

友達や先生との会話はもちろん英語なのですが、それぞれの国の訛りや発音の癖が色濃く出ていて、聞き取りに苦戦することが多々あります。話しているうちに不思議と慣れていくので、もっと話したいなと思う日々です。一度の留学で世界中の英語が学べて、なんだか得した気分です。



【ニースについて】

ニースの街並みは最高の一言に尽きます。どこを切り取っても素敵な景色。空港と船着き場以外の海岸線はすべてビーチになっており、長く、長くビーチが広がっています。学校からも下宿先の部屋からも徒歩3分ほどでビーチにたどり着くことができるので、よく日光を浴びにビーチに足を運んでいます。日光浴、海水浴、散歩、座って談笑などとビーチはニースの人々の生活の一部として存在しています。波の音と少し強めの日光が心地よく、穏やかな時間を過ごすことができます。まさに幸せ。



【さいごに】

今のところ日々楽しく新たな発見の連続で楽しく生活しています。初日の部屋の契約は本当にきつい思いをしましたが、とてもいい経験だと思えているので幸せです。

これから授業やデザインプロジェクトが進んでいき、大変なこと、毛布に包まって現実から身を隠したくなるようなことが沢山待っている気がしています。楽しいこと、つらいこと、すべてを宝箱に入れて持ち帰り、また開けたときにすべてが輝いて見えるように頑張っていきたいです。何事もチャレンジですね。